

# HAS概要と事業化事例

(ハッピー アンド ヘルシー・エイジング・シーン)

【HASブック第三版 準拠 2】

 一般社団法人  
健康ビジネス協議会

HASプロジェクト

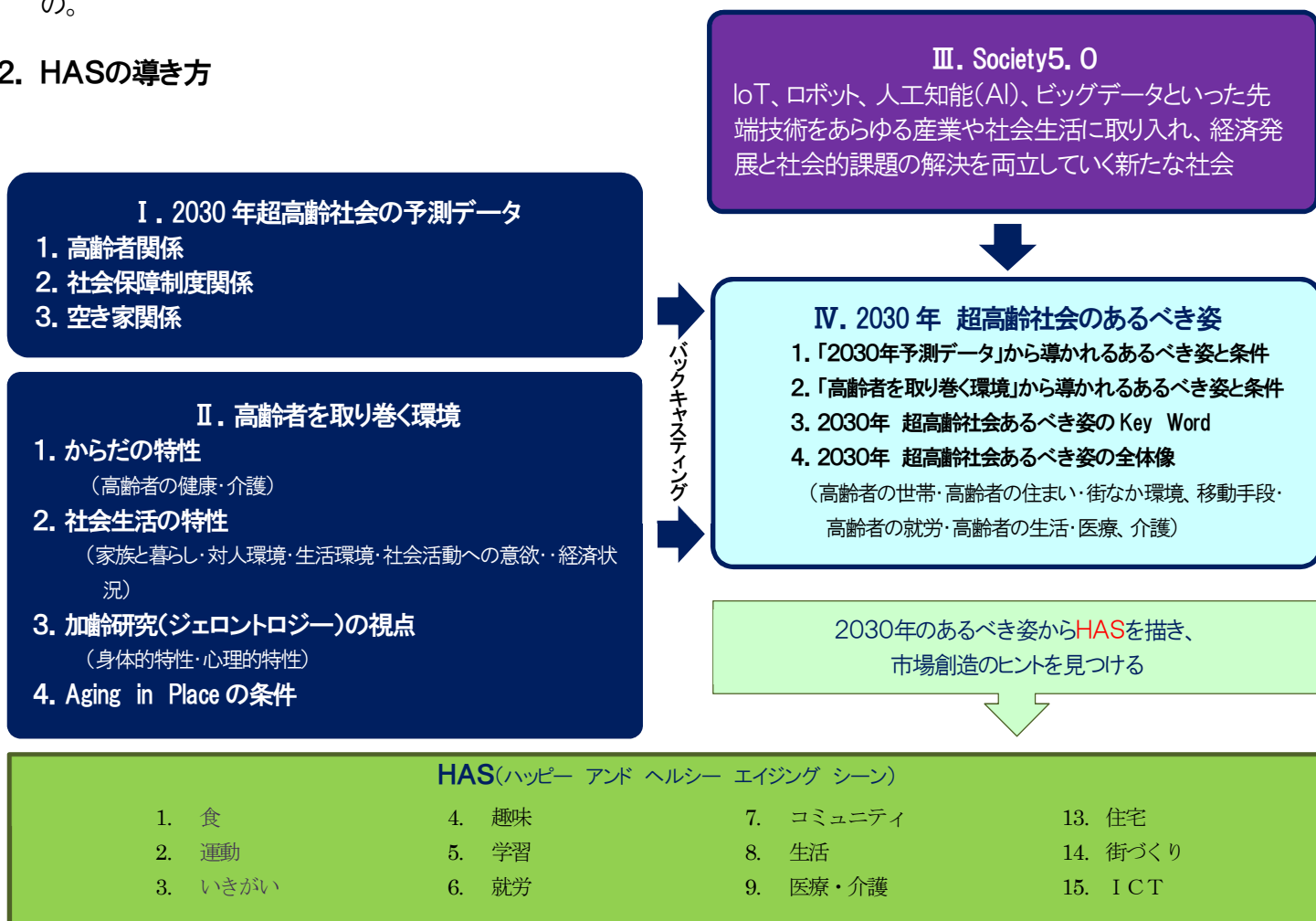


# HAS事業について

## 1. HASの定義

**HAS(Happy & Healthy Aging Scene)**とは、2030年の超高齢社会で、高齢者が健康で生きがいをもち続け、幸せ（心の満足感・安全安心・人としての尊厳維持等）を感じ、住み慣れた地域で、できる限り自立した生活を送り、最後まで自分らしく暮らし続けることのできるシーン（あるべきシーン）を、バックキャストिंगの手法を用いて想定したものの。

## 2. HASの導き方



### 2- I. 2030年超高齢社会の予測データと「あるべきシーン」

予測データ	2030年の超高齢社会の「あるべきシーン」
1. 高齢者関係 <input type="checkbox"/> 高齢化率: 31.2% <input type="checkbox"/> 人生100年時代—健康寿命を延ばす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人に1人が高齢者で、高齢者が幸せで快適な生活ができています</li> <li>・高齢者向けの各種事業から多くの雇用が生まれ多世代が幸せに暮らしている</li> </ul>
2. 社会保障制度関係 <input type="checkbox"/> 一人の高齢者に対し1.9人の現役世代 <input type="checkbox"/> 社会保障給付費: 医療が約1.7倍、介護が約2.4倍(対2018年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役世代に負担の大きい社会保障制度ではなく、元気な高齢者も相応の負担をする社会保障制度が確立され、自助・互助の活動も活発に行われている</li> </ul>
3. 空き家関係 <input type="checkbox"/> 空き家率: 30.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・官民の空き家バンクの活用により住み替えの中古住宅市場が形成されている。</li> <li>・クラウドファンディング等の活用により空き家の活用提案が積極的になされ、シェアハウスやたまり場併設店舗等コミュニティ施設として活用されている。</li> <li>・行政の適切な措置により、特定空き家等は解体撤去され新規の高齢者施設の用地や公園、市民農園として活用されている</li> </ul>

## 2-Ⅱ. 2030年の高齢者を取り巻く環境と「あるべきシーン」

1. 高齢者の特性とニーズ	2030年の超高齢社会の「あるべきシーン」
<p>1. からだの特性</p> <p><input type="checkbox"/> 高齢者の健康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 65歳以上の高齢者で、日常生活に影響のある人は4人に1人程度</li> <li>・ 高齢者の体力は年々向上の傾向にあり、健康寿命が延伸し平均寿命と比較しても伸びが大きい</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> 介護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 75歳以上の3人に1人が要介護状態。認知症の増加が多い傾向</li> <li>・ 介助者の6割が同居家族で、その7割は60歳以上の「老老介護」</li> <li>・ 介護ロボットの活用は介護をする人される人共に6割程度が肯定的</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立可能な健康寿命が延びていて、75歳未満の8割以上が日常生活に支障がなく、多くの高齢者が働いている</li> <li>・ 在宅介護が主流となり、介護が必要になった場合のケアシステムが確立されている</li> <li>・ 介護ロボットが普及し介護をフォローしている。家族の負担も減り介護離職者の問題も解決している</li> </ul>
<p>2. 社会生活の特性</p> <p>2-1. 家族と暮らし</p> <p><input type="checkbox"/> 高齢者の家族と世帯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者の「単独」「夫婦のみ」の世帯が28.2%</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> 一人暮らし高齢者が増加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2030年: 女性23.9% 男性18.2%が高齢者の1人暮らし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者のみの世帯が全世帯の3割弱を占め、4～5人に1人が一人暮らしとなる中、高齢者が暮らしやすくリフォームした住宅や、コミュニティの充実した集住の生活を送っている。また、IoTの活用によりネットワーク化された環境で過疎地、遠隔地においてもコミュニティに参加できる環境となっている</li> </ul>
<p>2-2. 対人環境</p> <p><input type="checkbox"/> 高齢者の付き合いの程度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域での付き合いのない人は女性18.8%、男性26.5%</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> 一人暮らしと孤立死</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 独居高齢者は4割以上の人が孤立死を身近な問題と感じている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人暮らしが増えているが、隣近所のコミュニケーションが良くなり孤独感はない。また、近所付き合いが頻繁になったため互助の精神が生まれお互いに助け合って生活している。また、見守りシステムが確立し孤独死の防止が図られている</li> </ul>
<p>2-3. 生活環境</p> <p><input type="checkbox"/> 住まい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者のいる世帯の8割以上が持ち家に居住している</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> 日常の買い物(自分で買い物に行く人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 買い物の交通手段は大都市では徒歩が半数以上、地方都市では6～7割が自動車</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> インターネットの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (2016年)60代で75.5%、70代でも半数以上がインターネットを利用。使用頻度も「毎日少なくとも1回」が43.2%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8割以上の高齢者が持ち家があるため、住みやすいようにリフォームするか住替えるかして暮らしやすい環境で生活している。</li> <li>・ 買い物環境は、インターネットの活用やドローン等による新配送システムによる宅配を活用したり、自動運転システムによる高齢者向け自動車の普及により不自由なくできる。また、空き家を利用した街なか店舗も増えてきている</li> </ul>
<p>2-4. 社会活動への意欲</p> <p><input type="checkbox"/> 社会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 70歳以上の男性の約5割、女性の4割強が社会的活動(仕事・ボランティア・趣味等)を行っていて「生きがい」に通じている</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> 就業状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「働けるうちはいつまでも働きたい」が約4割</li> <li>・ 希望者が65歳以上まで働ける企業は7割以上</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> 学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 70歳以上の4割以上がこの1年の間に生涯学習をしたことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康寿命が延びているため、75才を過ぎても半数近くの人が、ボランティア活動、地域社会活動、趣味やおけいこ事を行い【生きがい】を感じている。特に趣味がネット上で充実し、オンラインを通じて体験やコミュニケーションを実現している</li> <li>・ 高齢者は、働けるうちはいつまでも働くことができる就労環境となっている</li> <li>・ 在宅勤務環境が整備され、更にAIで能力の補完が実現している</li> </ul>
<p>2-5. 経済状況</p> <p><input type="checkbox"/> 所得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公的年金等が総所得に占める割合が80%以上の世帯が約7割弱</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> 貯蓄</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 60歳以上の世帯では、他の年齢層に比べて大きな純貯蓄がある</li> <li>・ 貯蓄の主な目的は「万一の備えのため」</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> 生活保護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 65歳以上人口に占める生活保護受給者は年々増加傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者の多くは就労しているので公的年金等に制限はあるものの暮らし向きの不安は減少している。また、介護が必要になった場合のケアシステムも確立されているためかつてほど「万一の備えのため」という目的での貯蓄も減り「生きがいのため」にシフトしている</li> <li>・ 高齢者のみの世帯に多い生活保護世帯も、高齢者が働きやすい職場が増えて収入が増えている</li> </ul>
<p>3. 加齢研究の視点</p> <p>3-1. 身体的特性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主に記憶力、視力、聴力、運動機能の低下などに現れる。様々な疾患・障がいを伴うことが多くなるが、個人差が大きい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康・スポーツへの取組等で健康寿命が延びているため、加齢に伴う身体的機能の低下は75歳以上になっても顕著ではなくなっている</li> </ul>

<p>3-2.心理的特性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会からの孤立を感じるなど、意識や行動も大きく変わる場合がある。記憶力が低下するが、知的能力や情緒面は高い水準を保ち、判断能力や思考能力は、高齢になっても衰えにくいとされている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 記憶力は衰えてくるものの、孤立感もなく【生きがい】を持った生活が送れて日々充実している</li> </ul>
<p>4.Aging in Place の条件</p> <p>4-1.健康が維持できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いつまでも健康が維持できて、自立した生活を送ることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住み慣れた地で、健康を維持でき自立した生活をできるだけ続けられる</li> </ul>
<p>4-2.生きがいを持ち続けられる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生きがいを持ち続けるために、社会活動に参加できて頼れる友人が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住み慣れた地で、生きがいを持ち続けるために、社会活動(仕事・趣味・ボランティア活動等)に参加でき頼れる友人が多い</li> <li>・ AIの活用により持っている能力の補完や最大化が可能となり、社会活動への参加機会が増大する</li> </ul>
<p>4-3.暮らしやすい街と家</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安心・安全な暮らしを可能にする街・家</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住み慣れた地で、安心・安全な暮らしを続けられる</li> <li>・ 自動運転技術の進化により公共交通も一部自動化され交通費が抑えられている。またIoTの活用によりオンデマンド交通も盛んになっている</li> </ul>
<p>4-4.在宅での介護・医療が可能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生涯、自宅で暮らせる医療・介護システムが充実している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住み慣れた地で、生涯自宅で暮らせるように医療・介護システムが充実している</li> </ul>

## 2030年超高齢社会 あるべき姿のKey Word

### ・健康寿命

健康寿命を延ばすことは、高齢者の就労をはじめとした社会参加機会の増加につながり、税収増、雇用機会の拡大に寄与する。更に、医療・介護費用の減にもつながる

### ・生きがい【「きょういく」と「きょうよう」⇒「今日、行くところがある」「今日、用がある」】

生きがいを持ち続けることが健康維持には不可欠。高齢者の生きがい創出は事業性もあり多世代の雇用創出にもつながる

### ・コミュニケーション

コミュニケーションは互助の精神をはぐみ孤独感を減少させる。コミュニティの充実が街の活性化にもつながる

### ・多世代共生

超高齢社会のあるべき姿は、高齢者のみの社会では達成できない。多くの高齢者を対象にした事業は多世代の雇用創出につながり少子化対策にもつながる必要がある

## 2-IV. 2030年の想定シナリオ

### 【高齢者の世帯】

65才以上の高齢者のみの単独・夫婦のみの世帯が多く、特に一人暮らし高齢者が約796万人(男性294万人・女性502万人)で、高齢者の男性の5人に1人、女性の4人に1人は一人暮らしをしている。しかしながら住み慣れた地で隣近所を中心に地域の人たちのコミュニケーションも良くなり、お互いに助け合う互助の精神が育まれている。かつては一人暮らしによる「孤独死」が問題になった時期もあったが、見守りシステムの普及やIoTを活用したネットワーク環境のもとでの社会参加機会が増して、孤独を感じるシーンは減少している。また、かつては、特に高齢者単独世帯では持ち家が「空き家予備軍」として懸念されたが、現在は空き家バンクの活用による中古住宅市場の活性化と持ち家をいったん売却してからも住み続けられるリース契約等様々な持ち家の活用の仕方が普及している。

### 【高齢者の住まい】

高齢者の住まいについては2極化している。一つは高齢になっても幸せを感じながら最期まで自分らしく暮らし続けられるように持ち家をリフォームして住み続ける住まい方。また一方では住みづらくなった持ち家を売却、あるいは持ち家を資産として活用する様々な方法で資金を調達し地元のサービス付高齢者住宅や有料老人ホーム等に移り住む住まい方。持ち家の無い人は自治体の支援制度により、地元の空き家を利用した廉価なサービス付高齢者向けシェアハウス等に移り住むという住まい方。いずれにしても多くの高齢者は質の高い住環境のなかで安心して暮らしている。

### 【街なか環境・移動手段】

放っておけば30%程度が空き家となり、ゴースタウン化したかもしれない街なかも、高齢者単独世帯の持ち家の様々な活用が普及すると同時に、自治体・地域住民・企業(NPO)・学校のコラボによりエリアマネジメントが推進されている。特に各世代が地元で暮らしやすい中古住宅に移り住む住まい方が流行っている。空き家の活用については、空き家を利用したコミュニティセンター、(多世代)集住のための居住施設、公園、市民農園等に整備され、緑豊かで歩きたくなるような住環境となっている。多世代が住むことにより、高齢者世代が現役世代の子供たちの面倒を見たり、子供たちやその親たちが高齢者に声掛けをしたりしている風景があちこちに見受けられ活気ある街となっている。また、IoTとAIの活用により、街全体の防災・防犯、交通事故防止が徹底され街の安心・安全が確保されている。さらに住宅を含めて街全体のエネルギーがコントロールされ環境にやさしいサステナブルな街となっている。移動手段も自動運転技術の確立により、高齢者向けのチャイ乗り用のPV(Personal Mobility)が主体となりカーシェアリングされている。また、IoTの活用によるオンデマンド交通も盛んで公共交通も一部自動運転化されていて交通費も抑えられるようになっている。高齢者の移動に不自由を感じるものが少なくなっている。



### 【高齢者の就労】

健康寿命が5歳延びて70歳までは現役世代となっている。更にAIの活用による能力補完や在宅勤務の普及により、70歳以上の高齢者は自分に合った形で、働けるうちはいつまでも働ける就労環境となっている。就労環境も高齢者や障害者に優しいユニバーサルな環境が整備されている。働き方も選択できるのでフルタイム働いている高齢者もいるし、各種の社会活動に参加したり、地域に貢献しながら働いている高齢者もいる。雇用する側も、高齢者の知財(知識や経験)を活かせるように創意工夫している。また、高齢者の知財(知識や経験)は、企業のみならず地域での教育や経済等地域の活性化に活かされている。

### 【高齢者の生活】

生活面では、働けるうちは働きながら趣味やスポーツ、地域のボランティア活動に参加している高齢者が多い。地域コミュニティが充実しているだけでなく、ネットを活用したオンライン上での趣味や様々な体験が場所を意識せずに可能となり、高齢者の生きがいにつながっている。また、AIスピーカーの普及により話すだけで各種の生活機器の操作や情報の收受ができるようになった。欲しいものをAIスピーカーに話しておくと宅配してくれる(遠隔地でドローンが運んでくる)。決済もフィンテック(Fin Tech)＊1の普及により自動で行われ、支払いのたびにいちいち財布から小銭を出す必要もなくなった。IoTとAIを活用した健康管理や栄養管理も意識することなく自動的に行われている。ウェアラブル端末やAI機能を組み込んだ生活機器(トイレ等)が自動的にヘルスマonitoringを行い必要とところ(健康管理:かかりつけ医・栄養管理:AI冷蔵庫等)へ情報発信を行ってくれる。栄養管理については、必要なレシピをAI冷蔵庫が示して、選択したレシピの食材で不足しているものは自動的に注文してくれる。加齢に伴う身体機能の低下にはパワースーツなどのロボティクスの進化により通常の暮らしには不便の無い生活が送れるようになっている。掃除や家事の多くは家事支援ロボットが普及し、音声認識機能の進化と相まって話しかけるだけで可能な家事をこなしてくれる。かつてはパソコンの操作等が出来なければ便利さの恩恵におあずかれなかった多くの高齢者も、今では意識することなく便利で快適な生活を送れるようになっている。

### 【医療・介護】

医療・介護については、地域の地域包括ケアシステムがベースとなり在宅でも不安はない。健康管理には、自動的にヘルスマonitoringデータが、かかりつけ医に伝わり、必要に応じてオンライン診療が可能となっている。通院する必要がないので大変楽である。薬も個人の症状に応じた調剤薬となっていて宅配が可能である。いざという時もあらゆる医療情報が共有されているため救急隊による措置～病院での治療まで最適な対応がとられるようになっている。介助が必要になってもAIロボットによる生活支援や話し相手などにより一人でも快適な生活を送れるようになってきている。要介護状態になっても介護認定審査時の情報や今までに蓄えられた医療・介護の情報から、AIによりその人に最も適したケアプランが作成される。在宅でも介護ロボットにより見守りや各種介護サービスの支援が行われるため、家族や介護職員の負担が大きく軽減されている。健康寿命の延伸により医療・介護に必要な期間は短くなったものの住み慣れた地域で安心・安全な生活を最期まで送るためには医療・介護も不安の無いようにしておかなければならない。

## 2-Ⅲ. Society5. 0

### □ Society 5.0で実現する社会

Society 5.0で実現する社会は、IoT(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、情報社会(Society 4.0)までの課題や困難を克服します。また、人工知能(AI)により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。社会の変革(イノベーション)を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となります。



## 渡辺游鷹さん(71才) 奥様・明美さん(70)

ご夫婦で二人暮らし。ご主人は定年を機に人生100年時代、体を動かして健康を維持することが絶対条件と考え、奥様と日課として運動を始めた。



- 若いころは現場を飛び回っていましたが、管理職になってデスクワークばかりで体を動かさずと言ったら月一のゴルフがせいぜいでした。妻も膝が悪くしてからは殆ど運動らしい運動はしていません。
- かつては市の体育館のトレーニングルームに行ったこともありますが、私の様な高齢者には無理だよな・・・と思っていたところ、市報に「シニア専用トレーニングルーム開設」という案内があり、早速妻と見学に行きました。
- まず驚かされたのは、最適な運動メニューを作成するために、カプセルのようなところに入り全身をスキャンし、保険証に入力されているヘルスログを読み取ってAIが最適なトレーニングメニューを提供してくれることです。妻のように膝が悪くても最適な運動メニューが提供されます。
- 提供されたメニューに従っていれば無理なくトレーニングできるんです。これなら続けられそうです。
- 更に、定期検診にかかりつけ医に行ったら私の運動記録が医師にもわかるようになっていて、医者からも生活習慣についての適切なアドバイスをもらいました。保険証のICタグに記録されているんだって！
- 100歳まで健康でいられそうな気がしてきました(笑)

## 市場創造のヒント

- シニア専用トレーニングルーム
- AIトレーニングメニュー
- 運動記録とヘルスログの連携
- 人生100年時代

## 江畑洋子さん(50才) 介護施設長さん

慢性的な人手不足で、かつては大変な苦勞を強いられていた介護現場で、最近活躍しているロボット介護をレポート。



- まずは、「介護記録の音声記録」です。介護記録はいつもその日の仕事が終わってからやっていた。これが、ピンマイクに状態をしゃべるだけでその場で自動記録できるようになったのです。
- 次に「介護施設用掃除ロボット」です。介護施設では、安全性で大変なハードルがありました。施設にいる高齢者が避ける能力がありませんから、絶対に人にはぶつからないという性能が必要です。また、感染症対策が必須なので、ごみを吸い取るだけでなく、消毒してほしいところです。ところが技術開発により、これが解決したのです。
- そして、「おむつ交換の人型ロボット」。おむつ交換は重労働でした。これをロボットがやるようになったのですから、ロボット技術の進歩には驚かされます。ロボットによるおむつ交換は、おむつ交換される高齢者の皆さんにとっても心理的負担もなくて好評なのです。
- これらのロボット化によって、私たち介護職員は、ロボットにはできない認知症の方への対応に力を振り向けています。
- ロボット介護の普及によって、余裕をもって人間らしい介護ができるようになりました。

## 市場創造のヒント

- 音声認識自動介護記録
- 介護施設用掃除ロボット
- ヒト型おむつ交換ロボット

### 3. HAS事業とは

HASで想定したあるべきシーンを達成するために必要なモノ・コトを産・学・官及び地域の人たちで創造し、(一社)健康ビジネス協議会の会員企業を中心となりビジネス化する事業

### 4. HASの要件

2030年の超高齢社会のあるべき姿を達成するためのモノ・コトを事業化するために、あるべき姿を4つのカテゴリー(1. 住まい 2. 生活 1【自立した生活】 3. 生活 2【介助の必要な生活】 4. 街づくり・移動)に分け、それぞれのカテゴリーごとにあるべき姿(目的)を達成するための手段を体系化し、その考え方及びガイドラインを示し「HASの要件」としてまとめた。HAS事業化のアイデアの根幹となる

#### 1. 住まい

HASの考え方		ガイドライン	
質の高い住環境の中で、安心して暮らし続けることができる	安全安心のためのリフォーム	健康な時から介護が必要になった場合まで、安心して住み続けることができるように工夫されている	
	健康維持・体力維持を目的としたリフォーム	健康寿命が延びるように工夫されている	
	生きがいを持ち続けるためのリフォーム	コミュニティを充実させたり、趣味を活かしたり、仕事ができる等、生きがいを持ち続けるための工夫がされている	
	設備の修繕、維持管理が確実に行われている	暮らし続けるための設備の修繕や維持管理の方法や体制の構築に役立っている	
	リフォームが容易に行われるような体制が確立している	高齢者向けの暮らしやすいリフォームが促進されるような方法や体制の構築に役立っている	
	質が高く、安心して暮らし続けることのできる住宅へ住み替える	同じ地域内のより安心して暮らしやすい住宅に住み替える	「Aging in Place」の考え方に合致して健康状態や独居の不安の解消等につながっている
		自分の価値観に合った住宅に住み替える	コミュニティ重視、趣味を活かす、自然と共生したロハスな生活がしたい等、価値観を満足するような工夫がされている
住み替えが容易に行われるような情報提供、促進体制が確立している		高齢者向けの暮らしやすい住宅への住み替えが促進されるような情報提供方法や体制の構築に役立っている	

#### 2. 生活1(自立した生活)

HASの考え方		ガイドライン	
生きがいを持ち続け、幸せ(心の満足感・安心安全・人としての尊敬)を感じ、自立した生活を続けられる	健康維持のための環境が整備されている	常に健康状態が管理されている	ICTの活用等により、健康状態の情報が常に管理され、健康維持のための食事や運動、医療へ活用されるように工夫されている
		健康維持に役立つツールや仕組みがある	からだの健康を維持するための機器やサプリメント等の開発、心の健康を維持するためのモノや仕組み、健康維持のための教育等
		運動ができる環境がある	高齢者向け運動施設や体を動かしやすい雰囲気のある街並み等運動ができる環境に工夫されている。また、情報提供がされている。
		からだや心の健康維持を目的とした、高齢者向け食品・嗜好品が充実している	食えることが楽しい高齢者が多いことから、楽しみながら健康維持できるように食品や嗜好品が工夫されている
	生活支援が充実し、自立した生活を続けられる	ハード面の生活支援が充実している	生活支援ロボットや、身体の衰えを支援する機器の開発等、自立した生活を続けられるように工夫されたモノ
		ソフト面の生活支援が充実している	生活支援のための各種サービスの提供等、自立した生活を続けられるように工夫されたサービス
	コミュニティが充実した環境にある	エリアマネジメントが確立し、コミュニティに必要な場があり、運営が確実になされている	趣味や娯楽、多世代交流等コミュニティの場づくりや運営に工夫がされている
		隣近所の人たちの行き来が活発に行われて、近隣同士の互助が浸透している	隣近所の人たちが行き来やすく、お互い様という精神が醸成されるような工夫がなされている
	生きがいを持って自立した生活が続けられる	就労の場がある	高齢者の知財を活かした就労の場やボランティア活動の場づくり、高齢者にやさしいユニバーサルな環境づくりに工夫がされている
		学習の場がある	飽くなき自己啓発意欲や趣味のスキルアップ等学習の場づくり、仕組みづくりに工夫がされている
趣味を活かせる等、自分の価値観を満足させられる		長年培ってきた価値観や趣味を活かすことで生きがいを持ち続けられるような工夫がなされている	



### 3. 生活2(介助の必要な生活)

HASの考え方		ガイドライン	
介助を受けながらも、生きがいを持ち続け、幸せ(心の満足感・安心安全・人としての尊厳)を感じる生活を続けられる	体調管理のための環境が整備されている	常に体調が管理されている	ICTの活用等により、体調の情報が常に管理され、情報が体調維持のための食事や、医療、介護へ活用されるように工夫されている
		体調維持に役立つツールや仕組みがある	体調を維持するための機器やサプリメント等の開発。心の健康を維持するためのモノや仕組み等
		外出できる環境にある	車椅子での移動が容易な歩道の整備等、介助が必要な場合でも外出しリフレッシュできる環境の整備に工夫がされている。
		体調維持や心の健康維持を目的とした、高齢者向け食品・嗜好品が充実している	介助が必要になっても楽しみながら食べることのできる食品や嗜好品が工夫されている
	生活介助が充実し、介助を受けながらも満足した生活を続けられる	生活介助を受ける人が満足を感じる	介助ロボットや身体機能支援機器の開発、各種サービスの提供等、介助を受ける人が満足を感じるように工夫されている
		生活介助を行う人が満足を感じる	介助支援ロボットの開発や介助者のための情報管理システム等、介助を行う人が満足を感じるように工夫されている
	コミュニティが充実した環境にある	介助が必要になってもコミュニティの場があり、運営が確実になされている	介助が必要になっても孤独感を感じず人間の尊厳を維持できるコミュニティの場づくりや運営に工夫がされている
		介助の一部を近隣同士の互助で行われている	隣近所の人たちが行き来しやすく、お互い様という思いで介助できるような工夫がなされている
	幸せを感じる生活が続けられる	体が不自由になっても心の満足感を感じる	からだの不自由さを感じながらも満足感を得られるような工夫がされている
		自力で動けなくても安全で安心な生活が続けられる	逃げる必要のない防犯・防災上の工夫がされている
		寝たきりになっても人としての尊厳を維持できる	最期まで人としての尊厳を維持できるような工夫がされている

### 4. 街づくり・移動

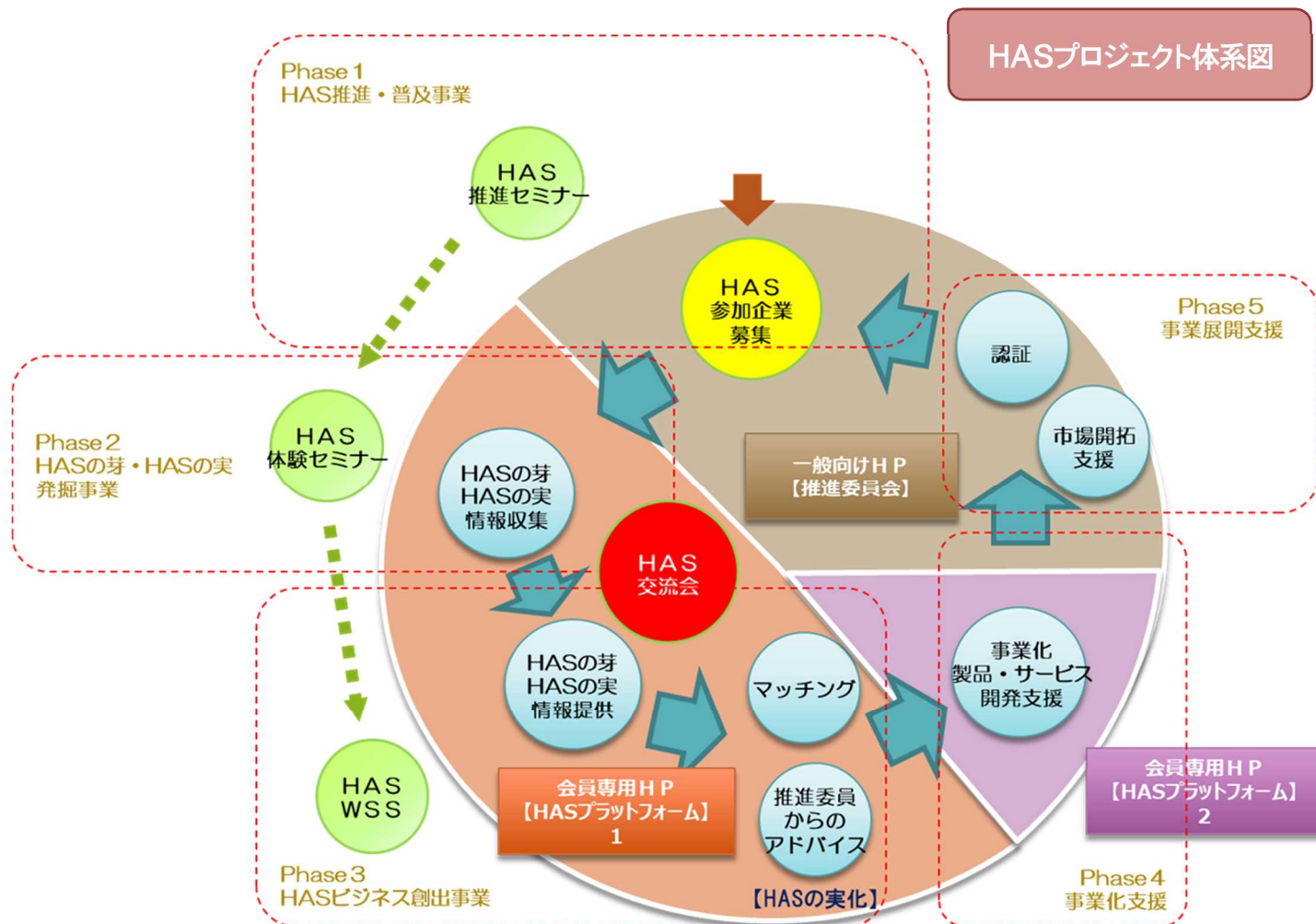
HASの考え方		ガイドライン	
住み慣れた地元で安心して自分らしく年を重ねる生き方のできる街	住まい方の変化に対応した最適な住宅が選択でき、多世代がともに住みやすい	高齢者以外(独身～子育てファミリー)にとって住みやすい	家族構成の変化に対応した住宅に、家賃負担が少なく移り住みかえられるように工夫がされている
		高齢者にとって住みやすい	自宅をリフォームして暮らし続けたり、より暮らしやすい住宅に住み替えたり、住まい方に対応して住まいが選択できるような工夫がある
	街の安全が確保されている	防災対策が確保されている	地震・津波・竜巻・土砂崩れ・洪水等の自然災害、火災等の人災に強い街になるような工夫がされている
		防犯対策が確保されている	住民のプライバシーに配慮しながら犯罪を未然に防ぐ工夫がされている
		交通安全のための配慮がなされている	高齢者や子供等交通弱者の安全が確保され、自動車・チャイノリ用PV・自転車・歩行者等機能別道路の整備に工夫がされている
	街の福祉が充実している	医療・介護等のシステムが確立されて機能している	地域包括ケアシステムを中心に医療・介護等のシステムが効果的かつ効率的に機能するように工夫されている
		自助・互助が充実し、社会福祉が行き届いている	高齢者や障がいのある人も普通に暮らせるような互助機能を有し、ノーマライゼーションのための工夫がされている
	街全体に活気がある	多世代交流をはじめ、コミュニティが充実している	各世代が交流できる場、多世代が交流できる場等、コミュニティが充実するような工夫がされている
		多世代の社会参加の場(就労・ボランティア活動)がある	高齢者の知財や時間を活用した就労の場をはじめ、街の中で多世代が収入を得られるような工夫がされている
		子育てしやすい子供が多い	街全体の互助の精神や高齢者の積極的な活動により、子育て世代が就労しやすい環境になるような工夫がある
		人が集まるしつらえがある	観光資源や特徴あるショッピングモール等、他地域からも人が集まるように魅力やしつらえに工夫がされている
	高齢者や障がい者にとっても便利な生活が送れる	簡単に移動できる手段がある	運転や乗り降りしやすいPVの開発、運転ができなくてもオンデマンドで移動できる手段等、簡単に移動できるような工夫がされている
		歩いて用事が足せる	コンパクトシティ化に向けた工夫がされている
	街全体が環境に配慮され、サステナブルである	生物多様性の保護に配慮されている	地域住民で自然保護、再生に取り組み、環境と共生した中で快適な生活ができるような工夫がされている
		エネルギーの地産地消に配慮されている	地域特性や地域資源を活用したエネルギーマネジメントが徹底され、エネルギーの自給自足を目指した工夫がされている



	食の地産地消に配慮され、地域固有の資源・技術・人を活かしている	地域の食材の活用及び6次産業化に向けた工夫がなされている。また、地域固有の資源・技術・人を活かす工夫がされている
	街の歴史の伝承と確実なエリアマネジメントの継続がなされている	エリアマネジメントのPDCAが確実に実施され、蓄積されることにより、街の伝統や歴史になるような工夫がされている

## 5. HAS事業の進め方

(一社)健康ビジネス協議会が「HASプロジェクト」を立ち上げ、「Phase1:HAS 推進・普及事業」「Phase2:HAS の芽・HAS の実発掘事業」「Phase3:HAS ビジネス創出事業」「Phase4:事業化支援」「Phase5:事業展開支援」を行う。HAS事業に係る情報の受発信はHASプロジェクトのHP上で行うが、HASビジネスの芽の発掘からHAS事業創出まではHASプロジェクト会員専用の【HASプラットフォーム1】上で行う。更に、「Phase4:事業化支援」については、事業化関係者のみが情報交換できる専用の【HASプラットフォーム2】を立ち上げセキュリティを強化した形で行う。HASプロジェクトの運営はHAS推進委員会が行う。



## 6. HASの事業化事例

### HASの事業化事例1

1. 事業名: 野菜作りの楽しさ広め隊【藤田智教授 監修】
2. 企業名: 株式会社ストックバスターズ【(一社)健康ビジネス協議会会員・HASプロジェクトメンバー】
3. HASカテゴリ: 生活1(自立した生活)
4. 目的: 健康寿命を延ばすために家庭菜園を普及する  
健康寿命を延ばす=体の健康を維持する(運動)+心の健康を維持する(コミュニティ・生きがい)

HASチェックリスト			カテゴリ2	生活1(自立した生活)
HASの考え方		ガイドライン	該当	コメント
健康維持のための環境が整備されている	常に健康状態が管理されている	ICTの活用等により、健康状態の情報が常に管理され、健康維持のための食事や運動、医療へ活用されるように工夫されている		
	健康維持に役立つツールや仕組みがある	からだの健康を維持するための機器やサプリメント等の開発。心の健康を維持するためのモノや仕組み、健康維持のための教育等		
	運動ができる環境がある	高齢者向け運動施設や体を動かしやすい雰囲気のある街並み等運動ができる環境に工夫されている。また、情報提供がされている。	●	畑での農作業は体を支える下半身の筋力を鍛えることができる。下半身の筋力を保つことは動脈硬化の予防にもつながる。
	からだや心の健康維持を目的とした、高齢者向け食品・嗜好品が充実している	食べるのが楽しみな高齢者が多いことから、楽しみながら健康維持できるように食品や嗜好品が工夫されている		
生きがいをもち続け、幸せ(心の満足感・安心安全・人としての尊厳)を感じ、自立した生活を続けられる	生活支援が充実し、自立した生活を続けられる	ハード面の生活支援が充実している		
		ソフト面の生活支援が充実している		
コミュニティが充実した環境にある	エリアマネジメントが確立し、コミュニティに必要な場があり、運営が確実になされている	趣味や娯楽、多世代交流等コミュニティの場づくりや運営に工夫がされている	●	家庭菜園の愛好家同士でコミュニティが生まれる。また、事業者はコミュニティのマネジメントを行う。
		隣近所の人たちの行き来が活発に行われて、近隣同士の互助が浸透している		
生きがいをもち自立した生活が続けられる	就労の場がある	高齢者の知財を活かした就労の場やボランティア活動の場づくり、高齢者にやさしいユニバーサルな環境づくりに工夫がされている	●	農作業という生産活動を通じて自給野菜の収穫はもちろん、村のコミュニティの場への出品も可能。
	学習の場がある	飽くなき自己啓発意欲や趣味のスキルアップ等学習の場づくり、仕組みづくりに工夫がされている	●	よりうまく、おいしい野菜を作ろうという意欲がわき、菜園技術のスキルアップが可能。
	趣味が活かせる等、自分の価値観を満足させられる	長年培ってきた価値観や趣味を活かすことで生きがいをもち続けられるような工夫がなされている	●	趣味の家庭菜園を続けることによって認知症予防や認知症の進行を遅らせる効果がある。

野菜作りの伝道師

## 藤田智教授のお話

野菜作りの魅力について…

四季の移り変わりに気づく感性が磨かれ、  
収穫物を介して家族や隣近所とのコミュニケーションも円滑に、  
土や野菜に触れることで心が癒され、  
収穫したばかりの新鮮な野菜が食べられる食への感謝と喜び



### プロフィール

恵泉女学園大学 人間社会学部教授 専門は、野菜園芸学、植物育種学、農業教育学  
NHK「趣味の園芸 やさいの時間」「世界一受けたい授業」等 TV 出演されている

## 5. 事業化の方法

家庭菜園の事業化を段階的に行う。

### Step1: プランターによる家庭菜園

目的: 素人でも簡単で失敗しない野菜作りを行うことによって成功体験を積み、家庭菜園の楽しさを味わえる  
事業化: 栽培に必要なモノやノウハウが全て揃った便利なプランターセットを開発販売



### Step2: 市民農園の開設

目的: 家庭菜園の楽しさがわかり、プランター栽培では物足りず、畑で実際に野菜作りをしたいというニーズに対応  
事業化1: 市民農園の開発・運営  
事業化2: 農具等畑仕事に必要なモノや栽培ノウハウの情報提供等、農作業に必要な製品やサービスの開発・販売



### Step3: 日本版ダーチャ村\*の開設

目的: 家庭菜園に生きがいを感じ、畑作をライフワークにし、半農半Xや晴耕雨読の生活にあこがれる人たちのニーズに対応  
事業化1: 日本版ダーチャ村の開設・運営(住宅付菜園の分譲・賃貸を含む)  
事業化2: 日本版ダーチャ村仕様の住宅の開発・販売  
事業化3: 日本版ダーチャ村生産物のブランド化・販売・6次産業化

日本版ダーチャ村\*

ダーチャとは「都市住民が週末やリタイア後に滞在し、農作業を楽しめる住宅」。1区画が約1反(300坪)のダーチャを30~40区画建設し、コミュニティを形成する。平日は地元の農家がこれらを維持する



## 6. 具体的な事業

### 事業1: プランター野菜栽培セット (Step1 事業化)

- 特徴: 1. 栽培に必要なものが全て揃っている  
2. 藤田先生の栽培マニュアルがついている  
3. プロが厳選した苗(種)を直送する  
4. 栽培中の疑問点はメールまたは電話でサポートする  
5. 使用後の土を送料のみで回収する



事業形態: 異業種コラボレーション型

- ・(株)ストックバスターズ:【統括責任会社】ショップの運営・受発注・栽培110番
- ・北越農事(株):商品の提案・出荷・マニュアル作成・栽培110番・培養土の研究開発、販売
- ・グリーンパル:プランター等の開発
- ・浅野木工所:野菜作り道具の開発
- ・ウェブナック:相談に特化した SNS(クックパッドの野菜づくり版)

### 事業2: 畑の3役さん (Step2 事業化2)

- 特徴: 1. カマ・クワ・レーキが1本になった。  
2. 腰の負担を軽減するために長柄であるにもかかわらず軽量で女性でも扱いやすい





## HASの事業化事例2

1. 事業名: トータル・サウンドケア・システム
2. 企業名: 日比野音療研究所【(一社)健康ビジネス協議会会員】
3. HASカテゴリ: 生活2(介助の必要な生活)
4. 目的: 体が不自由になり終末期を迎えても本物の「安らぎ」を得ることができる

HASチェックリスト		カテゴリ3		生活2(介助の必要な生活)	
HASの考え方		ガイドライン	該当	コメント	
介助を受けながらも、生きがいを持ち続け、幸せ(心の満足感・安心安全・人としての尊厳)を感じる生活を続けられる	体調管理のための環境が整備されている	常に体調が管理されている	ICTの活用等により、体調の情報が常に管理され、情報が体調維持のための食事や、医療、介護へ活用されるように工夫されている		
		体調維持に役立つツールや仕組みがある	体調を維持するための機器やサプリメント等の開発。心の健康を維持するためのモノや仕組み等		
		外出できる環境にある	車椅子での移動が容易な歩道の整備等、介助が必要な場合でも外出しリフレッシュできる環境の整備に工夫がされている。		
		体調維持や心の健康維持を目的とした、高齢者向け食品・嗜好品が充実している	介助が必要になっても楽しみながら食べることのできる食品や嗜好品が工夫されている		
	生活介助が充実し、介助を受けながらも満足した生活を続けられる	生活介助を受ける人が満足を感じる	介助ロボットや身体機能支援機器の開発、各種サービスの提供等、介助を受ける人が満足を感じるように工夫されている		
		生活介助を行う人が満足を感じる	介助支援ロボットの開発や介助者のための情報管理システム等、介助を行う人が満足を感じるように工夫されている		
	コミュニティが充実した環境にある	介助が必要になってもコミュニティの場があり、運営が確実になされている	介助が必要になっても孤独感を感じず人間の尊厳を維持できるコミュニティの場づくりや運営に工夫がされている	●	コンシェルジュがアフターサポートし、好きな音楽な話など、楽しい語らいの時間が持てる
		介助の一部を近隣同士の互助で行われている	隣近所の人たちが行き来しやすく、お互い様という思いで介助できるような工夫がなされている		
	幸せを感じる生活が続けられる	体が不自由になっても心の満足感を感じる	からだの不自由さを感じながらも満足感を得られるような工夫がされている	●	自然界の音をはじめ各種音源と人の安らぎの関係を一貫して研究・追求した「トータル・サウンドケア・システム」により、本物の安らぎを得られる。
		自力で動けなくても安全で安心な生活が続けられる	逃げる必要のない防犯・防災上の工夫がされている		
		寝たきりになっても人としての尊厳を維持できる	最期まで人としての尊厳を維持できるような工夫がされている		

## 5. 事業化の方法

終末期まで活用できる音による「安らぎ」を事業化する。

Step1:「安らぎ」を与える楽曲集・音響機器・システムサポートの開発・提供及び安らぎ効果の啓蒙



目的:「安らぎ」を与える音響システムを提供する  
事業化:「凧舟」の開発・販売

Step2:「凧舟」の音響効果を高めるための機器・空間の開発

目的:「凧舟」が与える「安らぎ」をより高める

事業化1:「凧舟」の音響効果をより高める室内空間の開発(聴覚)

事業化2:「凧舟」と相乗効果のある5感(視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚)を刺激する機器・食等の開発



# 曲 音 心

超高音質で収録された天上の音楽をはじめ  
安らぎの楽曲集をあなたのプライベートサロンへ

新潟・加茂の伝統工芸職人の手によるスピーカー  
その音色は、生楽器の如く、美しく響きわたります

季節毎の楽曲アップデートやメンテナンスとともに  
こころ通う楽しい語らいの時間を

# 凧舟

RINSHU

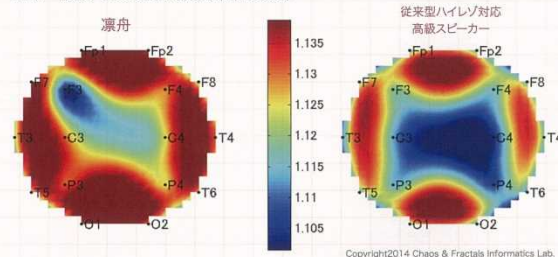
トータル・サウンドケア・システム

楽曲 アンプ スピーカー アフターサポート

「平安」「心地よさ」等の感性を35%向上させ、  
「不安」「恐れ」等の感性を55%減少

無意識下の精神安定に貢献  
(長岡技術科学大学によるエビデンス)

■図1 脳のフラクタル指数(脳の活性化の状態)



## 6. 具体的な事業

事業1:「凧舟」(Step1 事業化)

特徴:1. 超高音質の楽曲集

演奏家の平安の祈りと共に、24bit96kHzの超高音質で作られた、10時間に及ぶ安らぎの楽曲集。ご家庭、病院、在宅ケア、オフィス等にお好みの「音による安らぎ」を定期的にお届けします。

2. 工学・職人技術の結晶

舟の帆、船体、甲板のすべてがスピーカー(特許取得済)。生楽器のごとく、その振動は可聴範囲外の超域域ピアノシモをも遠くまで美しく響かせます。国産最高級の桐・檜を使用し、新潟・加茂の伝統工芸職人の手により一台一台丹念に制作。

3. アフターサポート

コンシェルジュがアフターサポート。音源アップデートやメンテナンスと合わせて、お好きな音楽のお話など、ともに楽しい語らいの時間を持たせていただき、こころ通うサービスを提供します。



## HASの事業化事例3

1. 事業名: プラチナ公園(多世代交流公園)器具

2. 企業名: NPO法人UD21にいがた(会員企業:株式会社サトミ産業)

【(一社)健康ビジネス協議会会員・HASプロジェクトメンバー】

3. HASカテゴリ: 生活1(自立した生活)

4. 目的: プラチナ公園において、多世代と一緒に運動やコミュニケーションが取れる器具を開発・普及する

HASチェックリスト			カテゴリ2	生活1(自立した生活)
HASの考え方		ガイドライン	該当	コメント
健康維持のための環境が整備されている	常に健康状態が管理されている	ICTの活用等により、健康状態の情報が常に管理され、健康維持のための食事や運動、医療へ活用されるように工夫されている		
	健康維持に役立つツールや仕組みがある	からだの健康を維持するための機器やサプリメント等の開発。心の健康を維持するためのモノや仕組み、健康維持のための教育等		
	運動ができる環境がある	高齢者向け運動施設や体を動かしやすい雰囲気のある街並み等運動ができる環境に工夫されている。また、情報提供がされている。	●	親子、高齢者と子供、高齢者同士、幅広い年齢層の2人が、一緒に気持ち良く利用できるように配慮されている(UDの考え方に基づき開発されている)。
	からだや心の健康維持を目的とした、高齢者向け食品・嗜好品が充実している	食えることが楽しみな高齢者が多いことから、楽しみながら健康維持できるように食品や嗜好品が工夫されている		
生きがいを持ち続け、幸せ(心の満足感・安心安全・人としての尊厳)を感じ、自立した生活を続けられる	生活支援が充実し、自立した生活を続けられる	ハード面の生活支援が充実している		
		ソフト面の生活支援が充実している		
コミュニティが充実した環境にある	エリアマネジメントが確立し、コミュニティに必要な場があり、運営が確実になされている	趣味や娯楽、多世代交流等コミュニティの場づくりや運営に工夫がされている	●	子供から車いす利用の高齢者まで、みんなと一緒にコミュニケーションが取れるように工夫されている。
	隣近所の人たちの行き来が活発に行われて、近隣同士の互助が浸透している	隣近所の人たちが行き来しやすく、お互い様という精神が醸成されるような工夫がなされている		
生きがいを持って自立した生活が続けられる	就労の場がある	高齢者の知財を活かした就労の場やボランティア活動の場づくり、高齢者にやさしいユニバーサルな環境づくりに工夫がされている		
	学習の場がある	飽くなき自己啓発意欲や趣味のスキルアップ等学習の場づくり、仕組みづくりに工夫がされている		
	趣味が活かせる等、自分の価値観を満足させられる	長年培ってきた価値観や趣味を活かすことで生きがいを持ち続けられるような工夫がなされている		



ある特定の人やグループに対してではなく、老若男女、国籍を問わず、健常者も障がいのある人も、あらゆる人たちが使いやすいように設計することを言います。そしてその設計する対象は、人が使うモノだけでなく、人に対するサービスや、人々を取り巻く環境、人と人との意思疎通のコミュニケーション手段等、つまり人が関わる全てを対象(製品やサービス)とします。  
 また、このユニバーサルデザインが今生きている人たちだけではなくて、まだ見ぬ未来の子孫達とも共有すべきという意味で、自然環境との調和のための「エコデザイン」、および生態系の循環のための「サステナビリティデザイン」も含めて考えます。つまりユニバーサルデザインとは一言で言うと『人と環境に優しいデザイン』と言うこととなります。

## 5. 事業化の方法

プラチナ公園器具を開発し、プラチナ公園の提案を行うことによって普及させる。

### Step1: プラチナ公園器具の開発

目的: プラチナ公園において、多世代が一緒に運動することができる。また、多世代がコミュニケーションをとることのできる  
 事業化1: 大人と子供のふれあい健康器具「あいあいストレッチ」の開発  
 事業化2: 多世代がコミュニケーションをとることのできる公園設備の開発

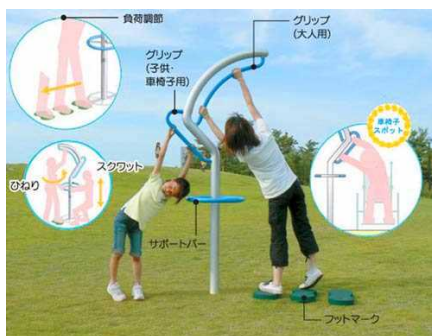
### Step2: 少子化し超高齢社会に対応した既存公園のプラチナ公園化の提案

目的: 少子化の影響で子供の遊び場としての機能が薄くなった「児童公園」を中心に、多世代が楽しめる「プラチナ公園」にリニューアルする提案を施設管理者に働きかける。  
 事業化1: 「児童公園」の「プラチナ公園」へのリニューアル提案  
 事業化2: CCRC等を活用したプラチナタウンへの「プラチナ公園」の提案

## 6. 具体的な事業

### 事業1: あいあいストレッチ (Step1 事業化1)

- 特徴: 1. 気軽にストレッチ  
 2. やさしい運動レベル  
 3. 色だけで使い方がわかるデザイン  
 4. 老若男女が2人で楽しめる



よこよこストレッチ



ぶらぶらツリー

### 事業2: ユニバーサルデザインコミュニケーション (Step1 事業化2)

特徴: みんなが一緒に集えて、より素敵な時間を過ごすことのできるツール

### さまざまな対話の生まれる日影。



#### 特徴

- カウンターボード上部の高さは760mm。車椅子の方(膝高さ620mm)の利用を考慮したサイズ設定としています。
- 車椅子の方との対話においても、  
 ・カウンターボード越しての対話。  
 ・より近くに向かい合って、お互いにサイドテーブルとして利用する対話。といった様々な利用を想定しています。



## HASの事業化事例4

1. 事業名:高齢者向け音楽療養コンテンツ「健康王国」で地方創生
2. 企業名:(株)エクシング(会員企業)【(一社)健康ビジネス協議会会員・HASプロジェクトメンバー】
3. HASカテゴリー:生活1(自立した生活)・街づくり・移動
4. 目的:「健康王国」で、多世代と一緒に運動やコミュニケーションを取り、「地域コミュニティ形成」の創出

HASチェックリスト			カテゴリー2・4	生活1(自立した生活)・街づくり・移動	
HASの考え方			ガイドライン	該当	コメント
生きがいを持ち続け、幸せ(心の満足感・安心安全・人としての尊厳)を感じ、自立した生活を続けられる	健康維持のための環境が整備されている	健康維持に役立つツールや仕組みがある	からだの健康を維持するための機器やサプリメント等の開発。心の健康を維持するためのモノや仕組み、健康維持のための教育等	●	500を超えるコンテンツの活用により様々なプログラムの構成
		運動ができる環境がある	高齢者向け運動施設や体を動かしやすい雰囲気のある街並み等運動ができる環境に工夫されている。また、情報提供がされている。	●	親子、高齢者と子供、高齢者同士、幅広い年齢層の2人が、一緒に気持ち良く利用できるように配慮されている(UDの考え方に基づき開発されている)。
	生活支援が充実し、自立した生活を続けられる	ソフト面の生活支援が充実している	生活支援のための各種サービスの提供等、自立した生活を続けられるように工夫されたサービス	●	固定されたソフトではないので、柔軟に対応できサービスの変化に対応できる。
	コミュニティが充実した環境にある	エリアマネジメントが確立し、コミュニティに必要な場があり、運営が確実になされている	趣味や娯楽、多世代交流等コミュニティの場づくりや運営に工夫がされている	●	全国に拠点があり多彩なサービスを提供できる
		隣近所の人たちの行き来が活発に行われて、近隣同士の互助が浸透している	隣近所の人たちが行き来しやすく、お互い様という精神が醸成されるような工夫がなされている	●	音楽を通して地域コミュニティを取る事で、更に関係の深耕
	生きがいを持って自立した生活が続けられる	就労の場がある	高齢者の知財を活かした就労の場やボランティア活動の場づくり、高齢者にやさしいユニバーサルな環境づくりに工夫がされている	●	地域包括支援センターの各予防教室に交流参加
		学習の場がある	飽くなき自己啓発意欲や趣味のスキルアップ等学習の場づくり、仕組みづくりに工夫がされている	●	(公社)虹の会の研修(仮称)音楽健康福祉士の資格取得
		趣味が活かせる等、自分の価値観を満足させられる	長年培ってきた価値観や趣味を活かすことで生きがいを持ち続けられるような工夫がなされている	●	歌唱行為による、認知予防のエビデンスを活用
	住み慣れた地元で安心して自分らしく年を重ねる生き方のできる街	街全体に活気がある	多世代交流をはじめ、コミュニティが充実している	各世代が交流できる場、多世代が交流できる場等、コミュニティが充実するような工夫がされている	●
多世代の社会参加の場(就労・ボランティア活動)がある			高齢者の知財や時間を活用した就労の場をはじめ、街の中で多世代が収入を得られるような工夫がされている	●	(仮称)音楽健康福祉士の資格取得することで自らが中心となって「健康王国」づくりに参加
人が集まるしつらえがある			観光資源や特徴あるショッピングモール等、他地域からも人が集まるように魅力やしつらえに工夫がされている	●	地域のコアステーションとして活用

## 5. 事業化の方法

多世代交流で地域活性化を図り、「歌と音楽」による「地域コミュニティ」を事業化する。

### Step1: カラオケと「健康王国」が持つコンテンツの提供

目的: エビデンスを基にした、「高齢者に健康増進」を与えるコンテンツを提供する  
 事業化: JOYSOUND・FESTA「健康王国」のコンテンツ開発・販売・レンタル

### Step2: 「健康王国」コンシェルジュの育成による雇用の創出

目的: 「健康王国」の豊富なコンテンツを効果的に提供するため、専門スタッフ育成講座の開設  
 事業化1: 「健康王国」の深耕を図る、研修事業の開発・運営  
 事業化2: 「健康王国」と(公社)虹の会とのアライアンスによる各種健康教室の開発

### Step3: 「健康王国」を中心としたコミュニティづくり (元気な高齢者が地域の課題解決を担うシステムづくり)

目的: 高齢者がアクティブに社会参加できる、楽しく集える場の創出  
 事業化1: 「健康王国」の開設・運営(行政施設・公民館・民間介護施設を活用)  
 事業化2: 「健康王国」のコンシェルジュ・音楽健康福祉士養成講座の開講・(公社)虹の会とのアライアンス  
 事業化3: 「健康王国」をブランド化・行政関連施設・介護施設での各健康教室・予防教室の開催

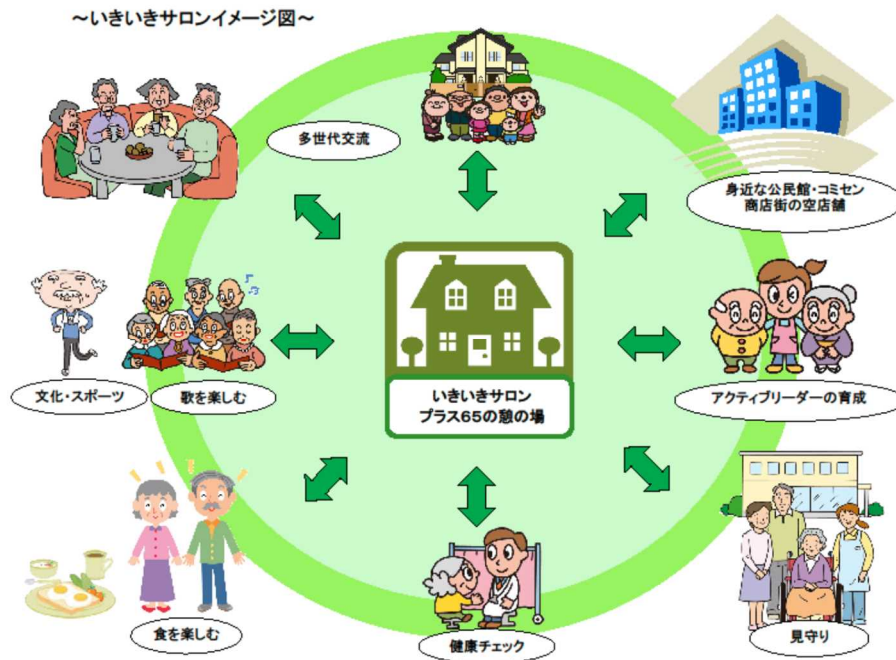


## 6. 具体的な事業

### 事業1: JOYSOUND・FESTA「健康王国」の販売・レンタル(Step1 事業化)

特徴: 1. 専門スタッフによる、充実したサポート体制

- ・音楽健康福祉士のコンシェルジュがコンテンツ説明、サービスを提供します
- 2. データやエビデンスに基づいた 500 以上の健康コンテンツを毎月定期配信
- 3. 公益社団法人虹の会との連携
  - ・公益社団法人虹の会によるキャラバンの安価受託



### \* 「健康王国」コミュニティイメージ

- ・行政・民間フィールドを活かした集まりの場の創出(「健康王国の推進」)
- ・元気な高齢者の社会参加促進(地域サポーターの育成)
- ・音楽健康福祉士の養成・派遣(雇用創出/人材育成)
- ・歌唱効果の効果測定(エビデンスの取得・研究)







**一般社団法人 健康ビジネス協議会 HASプロジェクト**

〒950-0078

新潟市中央区万代島5番1号 万代島ビル9F

TEL:025-246-4233

mailto:kenbikyou-owner@freeml.com

URL:<http://www.has-project.jp/>

HASブック第3版準拠